



I-OWA マンスリー・セミナー講演より 身近な人が元気なうちに話しておきたい お金のこと 介護のこと

講演：井戸 美枝氏
レポーター：赤堀 薫里

人生 100 年時代を見るには、「育ちの期間」「人生フル回転の期間」「黄金の期間」「おまけの期間」という 4 つのステージに分けるといいでしょう。人生フル回転の時代は、住宅の購入や子どもの進学、転職と様々なイベントがある中、100 年生きるのであれば、お金の先送りをして、どんなことがあってもコツコツ積立をすることがポイントです。

積立を続けることで体力のある 50 歳の時が、すごく楽しい時代になります。75 歳になると、「おまけの時代」なので知恵と工夫で楽しくわがままにできます。データからみると 100 歳までの人生も可能です。その男女比率は、圧倒的に女性が占め、女性は 10 年前後お 1 人様になるでしょう。

最後まで一人で楽しく生き終わるために、せめてお金に困らないようにする。お金の心配事として思い浮かぶのが、医療系や介護系です。しかし、しっかり見積もっておけばそんなに不安に思うことではないです。

年金世帯の収支を見ると、約 5 万円が赤字です。これから 2019 年に消費税が上がれば、食費の部分がかさんでくるのが予想されます。しかし、年金の部分は値上がりについていけないので、赤字の部分が増えてくるでしょう。





長期投資仲間通信「インベストライフ」

この収支の前提となる支出は、住宅ローンを60歳までに完済、教育費が掛からないことが前提で計算されています。60歳までに住宅ローンを抱え、教育費が掛かる場合は経済的に厳しい状況になるわけです。元気なうちは働いて5万~8万円ぐらい稼ぐことが一番手堅い方法なのかと思います。夫婦二人でこの金額を稼げばいいので、働き方も自由度が増すと思います。また、働くことによって事前に準備したお金を取り崩す期間も短くなります。

運用はずっとできるものでしょうか。仮に認知症になったらできませんよね。もし取り崩しを続けていても、どのタイミングで誰にバトンタッチするのか気になります。70歳ぐらいを過ぎてきた時点で、自分自身が情報収集等に不安を感じた時は定期等に戻す。普段の生活費が足りていたらいいので、あえて運用してお金を増やさなくてもいいと思います。仮に消費税が上がったとしても、その分生活をスリムにしていけばいいでしょう。

平均寿命から健康寿命を引いた、1人で生活するには不自由になると思われる期間は、男性は9年、女性は13年。平均寿命を平均余命に変えて計算すると、もう少し期間が延びると考えられます。実際は人それぞれですが、これくらい不自由な期間があり、誰かにお願いしなければいけない可能性があるという認識は、リスク管理として必要です。

75歳以降、1人当たり800万円あれば、介護保険を使い上乗せサービスをして、居宅であればいけると思っています。特に女性は3回介護を経験する可能性がでできます。一回目はご両親、二回目は夫、三回目は自分。夫の介護の時は老老介護になっているのでいっぱいお金を使ってしまう。今度自分が介護になった時は、人的資源がない。子どもに頼りたくないとなると、お金を払って誰かにお願いしなくてはならないので800万円。

団塊の世代の人達が75歳以上を迎える2025年問題があります。75歳以上になると介護が必要となる確率が上昇します。その後2040年には働き手と受け取り手のバランスがちょうどよくなります。

医療保険は2年に1回、介護保険は3年に1回改正があります。今年はこの両制度の改正の時期が重なりました。2025年問題を抱えているため、とても力の入った改正になっています。私達にとって、制度の内容や改正の流れを知っておくことは大事なことです。

この後講演では、医療分野・介護分野の最新情報や仕組みについてわかりやすく解説いただきました。公的な社会保障としてある健康保険や介護保険の保障内容を踏まえた上で、リスクに対する資金をどう考えるのか。ハッピーな終活を迎えるための事前の準備や、3世代でお金のことを考えることの重要性をお話いただきました。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

最後に、支援を受けることができる社会保障制度の知識や情報を、まず身に付けることが大事であり、実際に相談事例が起きた時には、市区町村へ相談に行くことが大切だと結ばれました。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

I-OWA マンスリー・セミナー座談会より 誰もが真剣に考えるべき問題総ざらい

座談会：、井戸 美枝 氏、参加者のみなさま
レポーター： 赤堀 薫里

参加者 | 自分自身の財産や身の回りのことは工夫して、エンディングノート等を作ります。でも、親の資産のことはなかなか話を切り出しにくいし、聞きにくいことがありますよね。今までのご経験を踏まえて、親との会話について何かヒントはありますか？

井戸 | 親の財産の整理を一緒にしようというのがいいと思います。孫に言わせると、より効果的だと思います。整理ができて、割りとお金が残っているのであれば、「教育資金贈与」や「相続時精算課税制度」を使うほうがいいのかそうでないのかというように、割り振りができます。家族のため、孫の為というと意外と動いてくれると思います。私自身の財産も 50 歳以降からシンプルに整理しました。



参加者 | 「やってね。」と言っても、「うん、うん」というだけで実際にやらないので、一緒に行くところまでやらないと効果がないということでしょうか。

井戸 | お金関係に詳しい方と一緒にやってみる、経験してみることが大事ですね。50 歳は、100 歳まで生きた場合ちょうど半分なので、どのようにお金と付き合うのか、またどのような制度があるのか、お金と人と制度を整理してみることは大切だと思います。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

参加者 | 私は、長い間、母と離れて暮らしているので、母の交友関係を知っているのはごく一部です。親の歴史の中で大事な人は別にいるのかもしれませんが、会話の中に出てこないとなんか分かりません。久しぶりに会っても「あなた元気？」で終わってしまいますから。コミュニケーションの取り方がすごく難しいです。

井戸 | ご実家に行かれたら、いろいろな引き出しを開けられるといいと思います。私の母の場合、すごく難しい内容の保険証書が出てきました。冷蔵庫には、牛乳を入れる所に全て目薬が入っていました。お医者さんに行く度に「お薬を出しておきましょうか？」と言われると「はい！」と言ってしまふ。お医者さんはわかって出されるのでしょうか。シッパが洋服ダンスの中に入っている。これが、高齢者の現実だと思います。でも、これも医療費を押し上げていますよね。全体でいうと、掛かる方の高齢者の意識もすごく大切だと思います。

岡本 | 私の父親は2000年に亡くなり、母親は2010年に亡くなりました。二人とも父親が亡くなる数年前くらいから認知症的な症状が強くなり、危なくなっていました。我々から見ると危ないのに、本人にしてみると全然危ないと思っていなかった。母は重度になっていたので疑いもなく認知症だったのですが、父はまだ比較的軽度だったのでむずかしかった。周りで見ていると危なかしくて仕方がないのですが。父親にケア付きの施設に入ることと薦めると物凄く抵抗して怒るわけです。結局、父親は納得しないまま強制的に移しましたが、本人が納得できる何か上手い方法はないですかね。

井戸 | 兄妹間で納得をするためにも、気持ちは変わるかもしれませんが、元気な時に書いてもらうことが大切だと思います。私の母も「何かあったら有料老人ホームに入りたい」と言っていたので、希望通り有料老人ホームに行きました。やはり事前に決めてもらうとか、兄弟がフォローしないとだめですね。1人の人に介護をあまり押し付けない方がいいと思います。疲れてしまいますよね。

岡本 | 施設に入って感じるのはやはり介護のプロは全然違うということですよ。介護される側にとってもプロにお願いした方が、心は安らかです。結局、認知症を治すというよりは、病気を抱えつつも心地よく生きてもらいたいという気持ちが強かったですね。

参加者 | 身内ですとどうしても感情が入りますからね。プロの人は仕事だから余計な感情が入りません。

岡本 | 技術もさることながら、仕事ということで自分自身の問題と心の区切りがついています。

参加者 | 事業者であれば1人で看ることはありませんからね。家族が家で看ることは無理だと思います。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

井戸 | でも今は、居宅中心にしたいですよ。ただ、居宅の事業者さんと書類を書くことはすごく大変です。あれは年金請求より難しいですから、高齢者の人は書けないですよ。私がケアマネさんを選ぶときは、事業者さんに所属している人で、どんな経験をしていて何年従事していたのか見た上で選びます。ケアマネさんの仕事は資格を取ったからできる仕事ではないので、個人差があります。難しいですね。

岡本 | 住宅についてはどうお考えですか。

井戸 | 若い人が家を買うときは、大抵子どもの成長に合わせて購入します。ただ、60歳を過ぎてから次の家、その次の家にどのタイミングで移っていくのかな？と疑問に思います。家を買うと3千万円位すぐになくなりますから。終の棲家まで考えないとすごくしんどいですね。有料老人ホームは2人部屋もありますが、全体的に少なくてすごく高いので、1人になってから行くべき所です。一時金は、あと何年生きるかによって計算されるため、行く年齢で金額は変動します。どのタイミングでどう動くのかすごく難しい。例えば、子育ての環境を考えて住んでいた場所が駅から遠い場合、車の運転ができなくなる年齢になると、都心にマンションを買うことを考えます。でもそこだけで終わらず、老人ホームへ行くことを考えると2回お金が必要になるわけです。今住んでいる所が売れるかという問題も出てきます。終の棲家はとても難しいですね。

参加者 | 母に、証券会社や金融機関には、ここまで開示してよいけどこれ以上は駄目だよと、いつも言っています。

岡本 | 私の父親も営業マンが来ると喜んで家に招き入れ、ビールをすすめていました。後で調べてみるとちょっとどうかなと思う投資を買っているんですね。母親と二人きりで暮らしていると、誰かが来てくれること自体が嬉しいのでしょうね。持ち上げてくれますから。「施設に入りなさい」とも言わないし(笑)、子どもが来るよりもはるかに良い事を言ってくれるわけですよ。

井戸 | 母が変な金融商品を契約した時に、販売した銀行へ行きました。銀行側は、「ぼけているかどうかは、名前が書けるかどうかで判断する」と言ったのです。投資経験の有無は、母は国債を買っていたので、国債が投資だと思いチェックしていました。そして、満期が来たものは全部別の金融商品に移させていました。やはり、一緒について行ってあげることが大事ですね。勧誘に来られても応じない。

参加者 | 現実的にはお金があれば有料老人ホームに入るのが一番正解だと思います。つい最近の経験ですが、高齢の母が救急の病院に入院しました。救急の間は少しでも早く退院さ



長期投資仲間通信「インベストライフ」

せようとしてくれましたが、知らないうちに慢性病棟に移されていました。その病院のお医者さんは、この人は寝たきりになるということを前提に扱います。私はそこでおかしいとすぐに気づき、退院させることができました。でもなぜ退院させることができたかというと、寝たきりになりかけている人を面倒見てくれる老人ホームに入っていたからです。普通のお家の場合、今まで歩いていた親が、病院にちょっと入っただけで急に寝たきりになって帰って来ると言われたらどうでしょう。自分の生活がガラッと変わってしまうわけです。そうすると、「すみません、そのままそこで面倒をみてください」ということになり、そのままあつという間に寝たきりになってしまいます。退院してきても、リハビリをするには手間がかかります。共働きの場合絶対にできません。だから、老人ホームに入っていてよかったと本当に思いました。自宅介護していたら絶対寝たきりになっていましたから。

井戸 | 私の親も、要介護2で有料老人ホームに入ったら要支援1まで戻りました。でも一つ問題があります。有料老人ホームは民間がやっています。家売ってなければなしのお金でやってしまうと、その施設が潰れた時の保証がありません。そこがなかなか難しい。

参加者 | 潰れそうもない所を選ばなくてはならないですね。

井戸 | でも、その人の寿命と会社の存続はどう計ればいいのでしょうか。私は福祉法人を探しました。そこがプロだからです。ご飯は作りたての方がいいでしょうけど、ゴージャスであるとか、そんなことより働いている人の経験の有無が大事ですね。企業がお金を出して最近作ったところが、どこまで徹底できているのかがわからない。看取りは絶対ある所ですね。

岡本 | 今日は誰もが真剣に考えるべき問題を総ざらいしていただきました。どうもありがとうございました。